

救急医療機関を適正に利用しましょう

岩見沢市では、岩見沢市医師会協力のもと夜間・休日における救急医療体制を整えています。日頃の受診の仕方を知ることが、地域医療をより良くすることに繋がります。岩見沢の救急医療を守っていくためみなさまのご理解とご協力をお願いいたします。



「救急の役割」

現在、救急医療は3つに区分されており、症状・緊急度に合わせて、それぞれ診療を行っております。

- ・初期救急～軽症だが、適切な処置を施さないと症状が悪化する場合に受診
(医療機関) 夜間急病センター・休日当番医
- ・二次救急～即入院を必要とするような重症患者を受け入れる
(医療機関) 大学病院、自治体病院、その他大型病院
- ・三次救急～集中治療など専門的な処置を施さないと命に係わるような重篤な患者を受け入れる
(医療機関) 救急センター

このように、程度によってかかる医療機関が変わってきます。擦り傷や風邪で二次救急や三次救急を受診してはいけません。



～安易な受診を考える～



風邪や擦り傷等の症状であるにもかかわらず、2次・3次救急を受診してしまうと、より重症な患者の受け入れや処置が遅れるなど本来の医療行為に支障をきたすおそれがあります。

また、安易な受診は、医療従事者の負担を増やし、救急医療に協力してくれる従事者や医療機関の減少を招きかねません。これは、救急医療体制の崩壊を助長してしまうことに繋がります。

< 普段からできること >

- ・かかりつけ医をもつ
普段から相談できる「かかりつけ医」を持つようにしましょう。昼間の受診等で信頼できる医者を見つけることは、自分の健康管理のうえでも非常に重要なことです。
- ・風邪や怪我に備えて、市販薬を常備する
最近の市販薬は、様々な症状に対応するものが増えてきています。薬局やドラッグストアに薬剤師がいれば相談して購入すると良いでしょう。
- ・無料の電話相談を利用する
救急医療情報案内センター 0120-20-8699
北海道小児救急電話相談 #8000または011-232-1599 (携帯の方)



急病センターに関すること!

- ① 応急処置が中心のため、専門的な治療は行えません。
- ② 詳しい検査はできません。
- ③ 救急診療は昼間診療と比べ料金が割高です。
- ④ 出されるお薬は、原則として通常の診療が始まるまでの日数分(通常は1日分)です。

問合先
岩見沢保健センター
(4条西3丁目 であえーる岩見沢3F)
健康づくり推進課総務管理グループ
0126-25-5540